

## 平成30年 3月期 第73期 業績概要 第3四半期

桂川電機株式会社

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月～平成29年12月）におけるわが国経済は、政府による経済政策を背景に企業収益や雇用情勢の改善が続くなか、景気は緩やかな回復基調が続いてまいりました。反面、海外経済の不確実性や北朝鮮の核開発を巡る緊迫した情勢が高まる不安定な国際情勢などから、先行き不透明な状況で推移いたしました。

世界経済は、米国の穏やかな景気拡大は続き、欧州も堅調な回復ペースが持続しておりますが、米国の政策動向による政治リスク、欧州の政治不安、アジア新興国などの経済の先行き、北朝鮮情勢やイスラム国等の不安定な情勢は未だ存在しており、依然として景気の先行きに不透明な状況で推移いたしました。

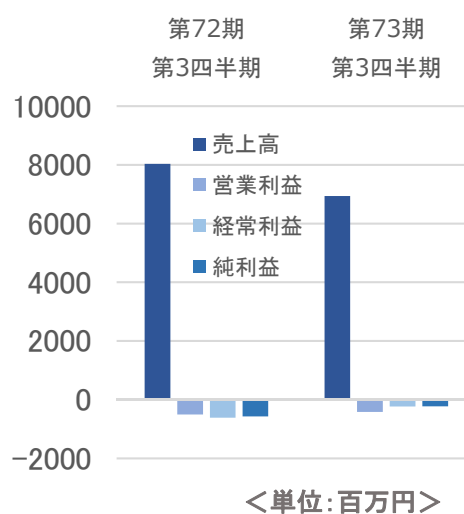
こうした中、当社グループにおきましては、北米市場を中心に欧州、アジア、国内等での販売事業を展開、新世代大判型カラープリンタとして好評を博しておりますKIP800シリーズより更に高速印字を可能とした新製品、高速カラーモデルKIP900シリーズを2017/10/10-12に米国ルイジアナ州ニューオリンズで開催された、SGIA2017において発表しましたが、機能の追加に時間を要し開発の遅れが重なったこと事から、市場の需要に十分に応える事ができずに売上げに影響を与えてしまいました。また、国内外における企業間価格競争の激化は止まらず、従来機の販売の低下等も売上減少の要因となりました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、69億37百万円と前年同四半期の80億30百万円に比べて約13%の減収となりました。営業損益は台湾工場での現地材料調達比率を高めた事等によるコストダウン強化を推進し、効果はありましたものの減収の影響が大きく、4億22百万円の損失（前年同四半期は5億6百万円の損失）、経常損益は1億92百万円の為替差益を計上したことにより損失は圧縮され、2億36百万円の損失（前年同四半期は6億14百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損益は、2億27百万円の損失（前年同四半期は5億74百万円の損失）となりました。

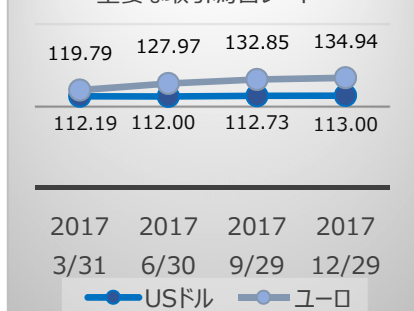
＜単位：百万円＞

項目	第72期 第3四半期	第73期 第3四半期
売上高	8,030	6,937
営業損益	△506	△422
経常損益	△614	△236
親会社株主に 帰属する 四半期純損益	△574	△227

連結業績概況



主要な取引為替レート



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMレート  
【出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

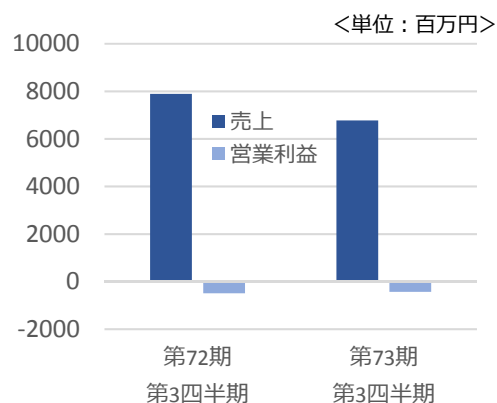
## 画像情報機器事業

画像情報機器事業の当連結会計年度の連結売上高は、前年度に比べて約14%減収の67億75百万円となり、営業損益は、4億29百万円の損失となりました。

台湾工場での現地材料調達比率を高めた事等によるコストダウン強化の効果はありましたものの、競合他社との企業間競争の激化が大きく影響した売上高の減少を補うには至りませんでした。

<単位：百万円>

	第72期 第3四半期	第73期 第3四半期
売上	7,887	6,775
営業損益	△489	△429



新世代大判型カラープリンタとして好評を博しておりますKIP800シリーズより更に高速印字を可能とした高速カラーモデルKIP900シリーズを日本国内においても11月21日にリリースし、12月1日より販売を開始し、好評を得ております。今後の業績に貢献する事と期待しております。



国内におきましても大判型カラープリンタの内覧会等を実施し、潜在的な大判型カラープリンタのニーズの掘り起しにも注力しております。